

# 「悔いなく全力で戦って」

## 全国高校野球 光星あす初戦

マネジャー小村さん、大坊さん



マネジャーとして選手のサポートに回る小村千鶴さん(左)と大坊桃香さん。2人も甲子園出場を夢見てきた=7月29日、八戸市

### 熱い思い、サポート奔走

兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で行われている第105回全国高校野球選手権大会で、12日にノースアジア大明校(秋田)との初戦を迎える八戸学院光星。「聖地」を目指してきたのは、球児だけではない。共に3年の小村千鶴さん(17)と五戸町1と、大坊桃香さん(18)と、おいらせ町の女子マネジャー2人も甲子園を夢見て、懸命に白球を追う選手たちを献身的に支えてきた。「いつも通り、がむしゃらにプレーしてほしい」。関西入りしたナインのサポートに奔走しながら、悔いなく全力で戦ってくれることを願っている。

(千藤洋也)

小村さんは、五戸町立上下川小2年から倉石中3年までの間、選手としてプレーしていた。小学生の頃、光星の選手が指導する野球教室に参加し、「地元を離れて野球だけに集中している姿がカッコいいと感じた」と憧れを抱いた。高校でもプレーを続けたい気持ちがあったが、「小さい頃からずつと応援してきた光星で、マネジャーとして甲子園に行きたい」との思いを強

くし、新たな形で野球と向き合うことを決めた。練習での選手のサポートに加え、練習試合のアナウンス、部室の清掃、来客対応などに励む日々。早い日は午前6時半に集合し、遅い日は午後9時半に帰宅することもあったという。甲子園の大舞台で活躍する光星の選手が、小さい頃から強く印象に残っていたという大坊さん。光星が出場した2019年夏の甲子園で、記録員としてベンチ入りした、はとこの大坊響さんにも感化され、同じようにマネジャーを志した。

光星は部員数が140人を超える大所帯。2人でサポートするには苦労も多いが大坊さんは「『ありがとう』と言われたり、選手たちの大きな声を聞いたりすると元気になる」とほほ笑む。甲子園に懸ける熱い思いは、マネジャーも選手たちと変わらない。青森大会では優勝が決まった瞬間、スタンドで抱き合っって喜びを爆発させた。甲子園で勝ち進んでいけば、2人も記録員としてベンチに入れる予定だ。小村さんは「暑さもあって大変だと思いが、力を振り絞って諦めずにプレーしてほしい」とナインにエール。大坊さんは「最後まで全力でサポートしたい」と晴れやかな表情を見せた。